



東経の森だより

■新次郎池周辺整備はじまる

東京経済大学（以下、本学）は 2020 年に創立 120 周年を迎えます。その記念事業として、またその後に続くキャンパス第 2 期整備事業の第一弾として、新次郎池を中心とする本学南側の緑地を、本学にかかわるみなさんのご意見をお聞きしながら整備を行ってまいります。工事は 2019 年度中に着工し、2020 年度秋にオープンの予定となっています。

このたび、緑の専門家として企画と設計を、東光園・グラック共同体（以下、東光園グラックJV）にお願いすることが決まりました。東光園グラックJVの協力のもと、みなさんに愛されるスペースを作っていきたいと思えます。

まずは現時点での構想案（裏面参照）をお伝えしたうえでご意見を伺いたいと考えており、以下のとおり「みなさんの意見を聴く会」を開催いたします。ぜひご参加ください。



日時：2019年7月23日（火）17時～18時
場所：東京経済大学国分寺キャンパス E203教室（5号館2階）

連絡先：東京経済大学 総務部管財課 緑と水作業部会
（受付時間 9：00～16：30）
電話 042-328-7738 FAX042-328-7771
e-mail : campus120@s.tku.ac.jp

新次郎池周辺整備及び国分寺崖線の保全整備に関するマスタープラン

本学キャンパス内にある「国分寺崖線」の一部を構成する緑地帯は、何万年もの自然の営みによる恵みと、人類の営みにより育まれてきた貴重な自然環境である。崖線（丘陵地）の緑地帯は、薪や落葉、山菜などを得るための人間の住居の裏山あるいは里山として、人々が間伐や下草刈り、さまざまな手入れをしながら維持してきた二次林ともいえる。そうした営みの積み重ねが、ケヤキやコナラなどが美しく生い茂るいわゆる「武蔵野の森」の風景を形づくってきた。

このような歴史を引き継ぐ本学は、これらの自然環境を「地域共通の宝」として認識し、健全な状態で将来世代に継承していく責任を有する。この認識をふまえ、本学は、地域社会と協働しながら崖線緑地帯を適切に管理し、より魅力的な環境として、あるいは生物多様性を育む都市の貴重な自然環境として、将来にわたって保全に取り組んでいくことを宣言する。

保全・整備方針

【樹林地の保全・生きもの生息空間の確保】

- ・在来種や生物多様性、野鳥生息を意識した森づくりを行う

【湧水保全・活用】

- ・湧水を保全し、緑と調和した親水性のある水辺空間づくりを行う

【地域協働】

- ・市民との協働による管理作業を今後も継続する

【良好な景観形成と開放性のある空間】

- ・バリアフリーに配慮し、眺望景観や水辺の風景を楽しめる空間づくりを行う

森の管理作業



長年、手つかずで保護してきたものの、シュロなどの外来種が繁茂して薄暗い森となっていたゾーンだったため、2012年から「森と水プロジェクト」として、地域の市民が参加して、学生・教職員の協働で管理作業を継続的に実施している。間伐・萌芽更新・手作業による下草の刈伐をしながら、林床に光を入れ、在来種のクヌギ、コナラなどを育成する長期のプロジェクトが進行中。

現況の在来種の森



在来種であるコナラの大木などが林立するエリア。ハクビシンやモグラ、多種多様な野鳥も棲息が確認されるゾーン。生物多様性を重視して動植物のサンクチュアリとして保全する。

「森のリビング」・「森の回廊」（新設）

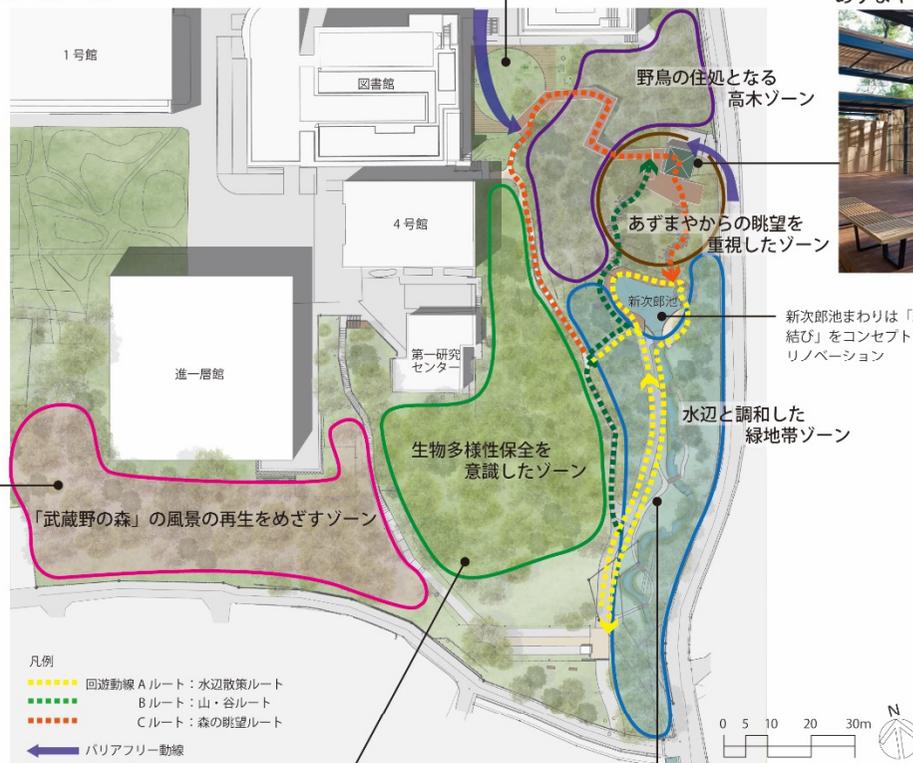


緑の原っぱを囲むフラットなウッドデッキ調の「森のリビング」（バリアフリー対応）から、斜面樹林をくぐり抜ける「森の回廊」を新設。手すりもついてより安全に、森のデッキへアクセスが可能。

あずまや（パーゴラタイプ）のイメージ



自然環境との調和を意識したパーゴラタイプ（※計画中）の屋根を持った展望所。新次郎池および池周りの緑を眺望できる休憩スペースを新設（バリアフリー対応）。



改修後の新次郎池のイメージ



ウッドデッキ調に新次郎池を囲み、水辺の憩いの場（親水空間）として整備。東経大のシンボル「葵」の葉形を意識して、大学と地域を結ぶ「縁結び」のゾーンとする。夜間のライトアップも検討。

せせらぎの散策路の整備



新次郎池の湧水と「野川」を結ぶ水系軸となるゾーンには、所々に親水護岸を設けたせせらぎとそれに沿った散策路を整備。